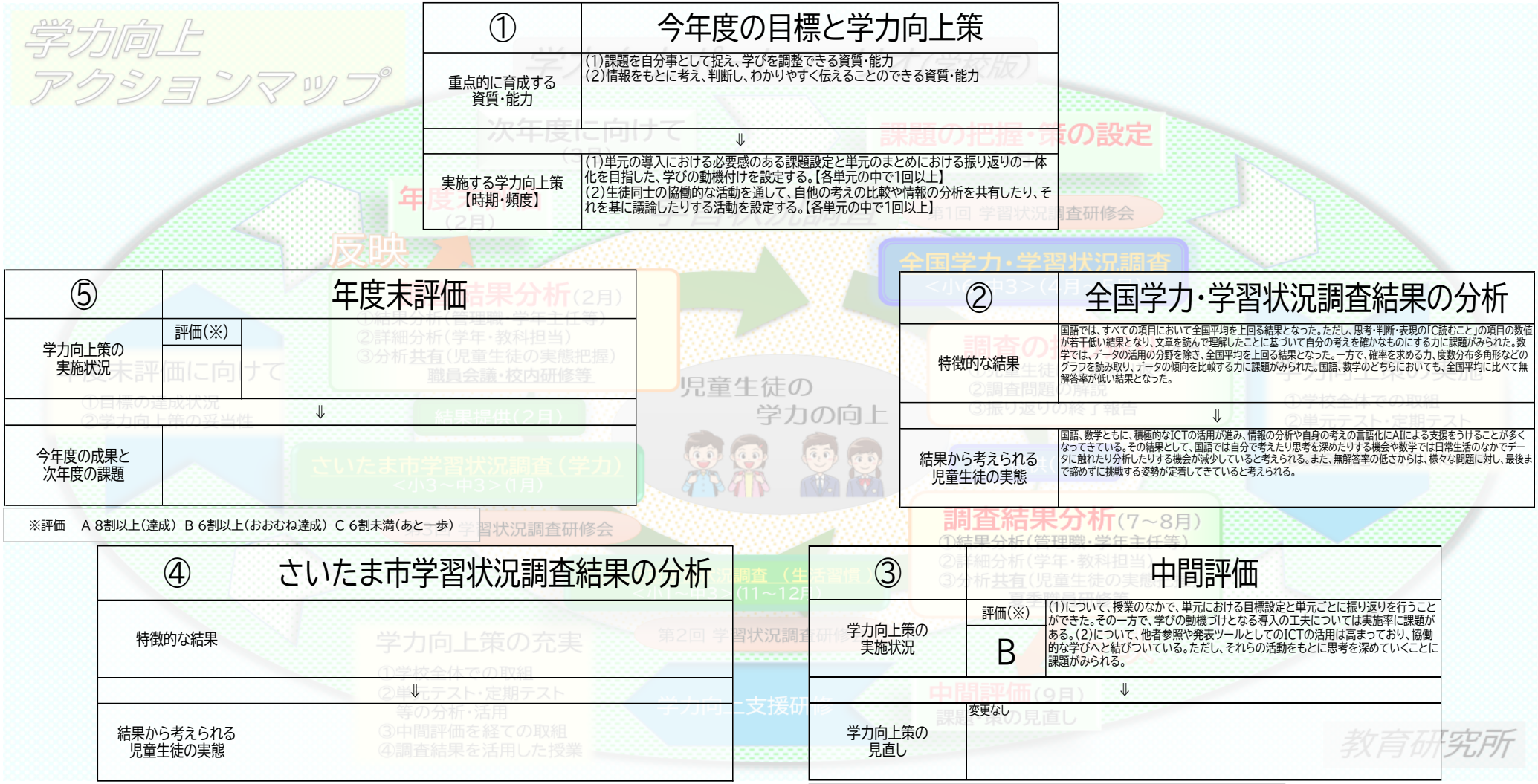
令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【指扇中】



①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)課題を自分事として捉え、学びを調整できる資質・能力 (2)情報をもとに考え、判断し、わかりやすく伝えることのできる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)単元の導入における必要感のある課題設定と単元のまとめにおける振り返りの一体化を目指した、学びの動機付けを設定する。【各単元の中で1回以上】 (2)生徒同士の協働的な活動を通して、自他の考えの比較や情報の分析を共有したり、それを基に議論したりする活動を設定する。【各単元の中で1回以上】

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語では、すべての項目において全国平均を上回る結果となった。ただし、思考・判断・表現の「C読むこと」の項目の数値が若干低い結果となり、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを確かなものにする力に課題がみられた。数学では、データの活用の分野を除き、全国平均を上回る結果となった。一方で、確率を求める力、度数分布多角形などのグラフを読み取り、データの傾向を比較する力に課題がみられた。国語、数学のどちらにおいても、全国平均に比べて無解答率が低い結果となった。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	国語、数学ともに、積極的なICTの活用が進み、情報の分析や自身の考えの言語化にAIによる支援をうけることが多くなってきている。その結果として、国語では自分で考えたり思考を深めたりする機会や数学では日常生活のなかでデータに触れたり分析したりする機会が減少していると考えられる。また、無解答率の低さからは、様々な問題に対し、最後まで諦めずに挑戦する姿勢が定着してきていると考えられる。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※) B	(1)について、授業のなかで、単元における目標設定と単元ごとに振り返りを行うことができた。その一方で、学びの動機づけとなる導入の工夫については実施率に課題がある。(2)について、他者参照や発表ツールとしてのICTの活用は高まっており、協働的な学びへと結びついている。ただし、それらの活動をもとに思考を深めていくことに課題がみられる。
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）